



カボチャ需要期出荷の強化目指す

2月2日(金)、カボチャの実績検討会と栽培講習会が追分生活センターで行われました。

管内では収穫目前の7月豪雨やその後の猛暑が影響して収量が減少しました。集荷は7月21日(金)から始まり、計42.5トンを出荷。販売額は836万円に上りました。秋田地区営農センターの営農指導員は「葉面散布剤などを活用しながら、高単価期の盆前により多く出荷できるようにしよう」と呼び掛けました。生産者からは2果穫りの注意点や液肥を施用するタイミングなどの質問が上がりました。

📷 お盆前後の単価の動向などを確かめました



男鹿地区花き実績検討会

1月30日(火)、花き部会男鹿支部の実績検討会が男鹿地区営農センターで行われました。12月末日までの出荷量は340万本で、販売額は1億6815万円。輪菊や小菊は大雨被害や猛暑による高温障害などで出荷本数が減少しましたが、全国的な異常気象の影響で引き合いが強くなり、高単価で推移しました。試験導入した小菊の大箱規格は、生産コストの削減への効果が見込まれるため継続します。

参加者は病害虫対策や主力の輪菊「精の一世」の栽培管理、高温対策資料などの理解も深めました。

📷 菊などの市場動向を確認する参加者

当JA酒米研究会が秋田市農業大賞に輝く



令和5年度の秋田市農業賞に、産地維持や農産物の高品質化などに貢献している5経営体が出されました。このうち、当JAの酒米研究会が実需者の要望に応える産地づくりを続けている点が評価され、大賞を受賞しました。

同研究会は昭和63年に羽後河辺町農協酒米研究会として設立され、7戸が2ヘクタールで「美山錦」の栽培を始めました。取引酒造業者や作付け品種を徐々に拡大し、雄和地区の生産者が加わり現在の会員数は22戸。酒蔵からの要望を受け、「秋田酒こまち」や「改良信交」「亀の尾」など計6品種を74.3ヘクタールで生産しています。

2月7日(水)に表彰式が秋田市役所正庁で開かれ、表彰状を受け取った同研究会の高橋恒悦会長は「大賞に恥じないように今後も精進したい」と話しました。高橋会長は同研究会のこれまでの活動実績などを発表し、コロナ禍などを経て、品質重視の生産活動に注力していることを紹介しました。

農業子ども絵画コンクールでは、市立桜小5年の佐藤純花さんが苗を手植える様子を描いた「ひとつひとつ真心こめて」が最優秀賞を受賞し、入賞した児童10名が表彰されました。市農政協力員11名の永年勤続表彰も行われました。

大賞以外の秋田市農業賞の受賞者は次の通りです。(敬称略)

▽経営体部門土地利用型の部 高橋宏直(同市河辺)▽同部門園芸生産の部(農)種沢ファーム(同市雄和)▽若手農業者部門 安藤努、安藤ひろみ(同市添川)▽地域活性化部門 新政酒造(株)(同市河辺)

- 📷 1 … 地域農業への貢献が称えられた受賞者や市農政協力員ら
- 2 … 農作業の様子や収穫の喜びを独創的に描いた児童
- 3 … 酒米生産の実績を発表する高橋会長